

## 第 23 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：平成 30 年 7 月 25 日（水） 15：00～17：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第 2 大会議室

### 1. 燃料デブリ取り出しに関する検討状況について

東京電力から、燃料デブリ取り出しに関する検討状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今後の調査等で用いる装置について、これまで実施されている燃料デブリ取り出しに関わる研究開発の成果も必要に応じて活用すべきである。
- 内部調査を行う装置を繰り返して使用する場合は、その際の経験を基に改良を重ね、信頼性を向上させていくべきである。
- サンプルングとその結果の評価は、その後の小規模取り出しの計画に役立つように実施するべきである。
- 今後の調査等のために新規の装置や工法の開発を進める際は、取り組みの信頼性を確保するために必要に応じてモックアップでの検証を実施するべきである。
- 燃料デブリ取り出しを行う際の被ばく線量の評価は、環境等不確実な要素を踏まえた適切な裕度を組み込んだ評価を行うべきである。
- 労働安全上の検討は、燃料デブリ取り出し作業に限らず、常に検討しておくべきものである。
- 今後実施する燃料デブリ取り出しに関する作業の妥当性については、作業を行うことの影響が作業に直接関わる部位だけでなく、系全体に相互作用を与える可能性なども含めて評価するべきである。

### 2. 1～3 号機格納容器内部調査関連サンプル等の分析結果について

東京電力から、格納容器内部調査等により採取したサンプル等の分析結果について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 分析結果に関し、核種の由来や分析精度等の確認を引き続き実施し、考察を更新していくべきである。

3. 「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」の考え方について

NDF から、「初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定」に関する考え方について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 安全について、作業の実施に伴って異常事象の発生する可能性が抑えられていることは重要であるが、異常事象が発生した際の収束方法や影響の拡大防止についても検討がなされていることも評価の着眼点に加えるべきである。

4. 燃料デブリ取り出しに当たっての「安全確保の考え方」について

NDF から、燃料デブリ取り出しに当たっての安全確保の考え方について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 燃料デブリ取り出しに当たっての安全基準については、国際基準等と考え方を合わせることは重要だと考えるが、数値を定める場合には国際基準等が前提としていることと 1F の置かれている状況をよく踏まえた上で慎重に検討すべきである。

以上